

第 74 回 日本ユネスコ運動全国大会 in 函館について

■開催概要■

日 時：2018 年 7 月 7 日（土）～8 日（日）

場 所：函館市芸術ホール（懇親会：ホテル函館ロイヤル）

主 催；公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 北海道ユネスコ連絡協議会
函館ユネスコ協会

参加者：のべ 750 名（一般市民含む）

■開催趣旨■

本大会は、民間ユネスコ運動発祥とともに始まったもので、原則として1年に1回、全国の会員が集い、日ごろのユネスコ活動の情報交換を行うとともに、大会テーマに基づき研鑽することを目的としている。

今年度の大会は、「広げよう平和・共生の心～北の大地から次世代へ～」をテーマに、北海道函館市で開催した。函館の歴史や文化を通して、平和・共生の心を次世代に伝えていくために、今私たちは何をすべきなのか、私たちのビジョンである「” Peace for Tomorrow” 広げよう平和の心」に照らして、行動に繋げることを開催趣旨とした。

また、本年は日本全国の豊かな自然や文化を、100年後の子どもたちの未来に残していくことを目指して開始した「未来遺産運動」が、記念すべき10周年を迎える年となるため、全国大会の中で記念フォーラムも実施した。



〈開会式〉



〈オープニングコンサート〉

■開催内容■

①基調講演

北海道博物館長の石森秀三氏による、「文明の心、未開の心～人口減少時代における幸せを考える～」と題した基調講演は、ご自身の文化人類学のフィールドを基盤として、平和を愛し自然と共生してきた縄文人や北海道が育んできた歴史、日本と世界が置かれている現状等から、これからの時代の新しい生き方を考える示唆に富んだ講演となった。

②函館野外劇と映像による構成劇

函館の夏の夜の風物詩となった市民創作「函館野外劇」は、歴史の1ページを刻んだ国の特別史跡「五稜郭」を舞台として市民の手で作り上げられている。今回は、日本ユネスコ運動全国大会のために再構成し、屋内で魅せるダイジェスト版として上演された。民間ユネスコ運動の青年会員、鈴木佑司日本ユネスコ協会連盟理事長も出演した。



〈基調講演〉



〈函館野外劇〉

③ESD 活動報告

北海道では、ユネスコ・スクールや各学校で様々なESD活動が行われており、函館市立日新小学校から平和教育、函館西高等学校と北海道七飯高等学校から環境教育を軸としたESDへの取り組みを児童・生徒自らが発表した。

④10周年記念 未来遺産運動フォーラム

日本の豊かな自然や文化を次世代に伝えていくためには、北海道内のプロジェクト未来遺産から、文化・自然それぞれの団体から活動や、地域の方々との協力方法を発表していただき、その後のディスカッションを通して、日本の自然・文化の継承という社会的な課題を解決していくための様々なヒントが出された。



〈未来遺産運動フォーラム〉



〈懇親会〉

⑤特別講演

前・函館市縄文文化交流センター館長である阿部千春氏の「縄文文化／レジリエンスと多様性」と題した特別講演は、「北海道・北東北の縄文遺跡」の世界遺産登録を見据えながら、縄文文化についてわかりやすく語られ、ESDにも触れながら、聴衆に縄文文化についての理解と関心がより一層含まれるものとなった。

⑥パネルディスカッション

大会テーマである「広げよう平和・共生の心～北の大地から次世代へ～」を掲げ、教育・縄文・アイヌ・環境等の各分野の専門家から、ESDの現状や課題を踏まえながら、相互のつながりを探りながら、どのように次世代に伝えていくかについて、熱心な議論が行われた。

⑦青年活動の今

北海道で活躍しているこれからの民間ユネスコ運動を担う青年、佐々木将人さん（札幌ユネスコ協会）、新屋彩さん（石狩ユネスコ協会）から自分がユネスコ活動に関わるきっかけや今後の展望について、発表があった。



〈パネルディスカッション〉



〈青年活動の今〉

■ 概 括 ■

開催日と西日本豪雨が重なり、被災状況が大変心配される中の開催となった。なお、大会に関しては、事前申し込みをしていたほとんどの会員が、交通状況の悪い中、全国から函館まで足を運び参加した。

例年のように、中国連盟から陶西平会長を含め4名、韓国連盟からは柳在乾会長を含め26名の参加もあり、旧交をあたため、更なる友情を育むことが可能となった。

本大会では、函館の歴史や文化を背景に、研鑽と交流を深めると同時に、多くの青少年が登壇したことにより、次代を担う若者が、民間ユネスコ運動の主役として関わっていくことの重要性を改めて認識する機会となった。

以上